

最初に出会うのは私たち

市立図書館で働く佐藤遙さんの話です。

配属されたばかりの頃、彼女の担当は入口カウンターの来館者に利用カードを確認し、館内を案内する仕事でした。毎日同じ説明の繰り返しで、正直「退屈な仕事」だと感じていました。

そんなある日、清掃担当の年配職員から声をかけられます。「ここで最初に出会うのは私たちだよ。あなたの一言で、その人の一日が変わるかもしれない。」遙さんははつとしました。自分は本の貸し出し係ではなく、「安心の入り口」を守っているのだと気づいたので

翌日から彼女は、目を見て「ようこそ」「ごゆっくりどうぞ」と声をかけました。不思議なことに、同じ仕事なのに心が温かくなる瞬間が増えていきました。

「退屈な仕事」は「やりがいのある仕事」へと変わったのです。

意識が変われば、景色も変わる。やりがいは、与えられるものではなく、自ら見つけるものなのだと思いました。

今日の言霊：意識一つで輝く

この話の核心は、立場の小ささではなく、役割の重さに気づくことにあります。

入口での応対は単純作業に見えますが、そこで受け取る第一印象は、その場所全体の印象につながります。本人が意味を見いだせなければ、時間はただ過ぎるだけです。しかし、自分の行動が



誰かの気持ちを左右すると理解した瞬間、同じ業務でも価値が生まれます。周囲から与えられる評価よりも、自分がどう意味づけるかが大切なのです。

物事の面白さは内容そのものより、向き合い方で決まります。どの立場でも、誰かの始まりに関わっているという自覚が、人を成長させ、日常を充実へと導く鍵になります。それは家庭や職場など、あらゆる場面に通じる大切な視点です。

【今回の学び】⇒役割の大きさは立場でなく「影響力」でできる！

最初に出会うのは私たち

市立図書館で働く佐藤遙さんの話です。

配属されたばかりの頃、彼女の担当は入口カウンターの来館者に利用カードを確認し、館内を案内する仕事でした。毎日同じ説明の繰り返しで、正直「退屈な仕事」だと感じていました。

そんなある日、清掃担当の年配職員から声をかけられます。「ここで最初に出会うのは私たちだよ。あなたの一言で、その人の一日が変わるかもしれない。」遙さんははつとしました。自分は本の貸し出し係ではなく、「安心の入リ口」を守っているのだと気づいたので

翌日から彼女は、目を見て「ようこそ」「ごゆっくりどうぞ」と声をかけました。不思議なことに、同じ仕事なのに心が温かくなる瞬間が増えていきました。

「退屈な仕事」は「やりがいのある仕事」へと変わったのです。

意識が変われば、景色も変わる。やりがいは、与えられるものではなく、自ら見つけるものなのだと思いました。

今日の言霊：意識一つで輝く

★問一（語彙） 本文中の「やりがい」の意味として最も適切なものを選びなさい。

- ア 仕事の量の多さ
- イ 他人からの評価の高さ
- ウ 努力する価値があると感じられること
- エ 楽で簡単であること

★問二（選択） 遙さんが「退屈な仕事」だと感じていた理由として最も適切なものを選びなさい。

- ア 本が嫌いだったから
- イ 毎日同じ説明の繰り返しだったから
- ウ 人と話すのが苦手だったから
- エ 勤務時間が長かったから

★問三（選択） 清掃担当の職員の言葉が遙さんに与えた影響として最も適切なものを選びなさい。

- ア 仕事を辞めようと決意した
- イ 本の知識を増やそうと思った
- ウ 自分の役割の意味を考え直した
- エ 配置換えを希望した

★問四（選択） 本文の主張として最も適切なものを選びなさい。

- ア 仕事は楽であるほど良い
- イ やりがいは他人が決めるものである
- ウ 意識の持ち方が仕事の価値を変える
- エ 経験を積みあげれば自動的に成長できる

★問五（記述） 「意識一つで輝く」とはどういう意味か。本文を踏まえて説明しなさい。（ち字程度）

模範解答・解説

★問一 模範解答 ウ

○解説④ 「やりがい」は、行為に価値を見だし、努力する意味を感じる。本文では意識の変化により生まれた感覚を指す。

★問二 模範解答 イ

○解説④ 「毎日同じ説明の繰り返し」とあり、単調さが退屈さの原因である。業務内容そのものより反復性が問題であった。

★問三 模範解答 ウ

○解説④ 「安心の入リ口」を守る役割に気づいたとある。言葉が職務の意味を再認識させ、意識転換を促した。

★問四 模範解答 ウ

○解説④ 同じ仕事でも意識が変われば価値が変わると結論づけている。主題は「意識」と「やりがい」の関係である。

★問五(記述) 模範解答(例)

仕事の意味に気づけば、同じ仕事も価値あるものに変わるということ。

○解説④ 退屈だった仕事が意識の変化で輝き始めた事例から、価値は内面の姿勢で決まるとまとめる問題である。

この話の核心は、立場の小ささではなく、役割の重さに気づくことにあります。

入口での対応は単純作業に見えますが、そこで受け取る第一印象は、その場所全体の印象につながります。本人が意味を見いだせなければ、時間はただ過ぎるだけです。しかし、自分の行動が



誰かの気持ちを左右すると理解した瞬間、同じ業務でも価値が生まれます。周囲から与えられる評価よりも、自分がどう意味づけるかが大切なのです。

物事の面白さは内容そのものより、向き合い方で決まります。どの立場でも、**誰かの始まりに関わっているという自覚**が、人を成長させ、日常を充実へと導く鍵になります。それは家庭や職場など、あらゆる場面に通じる大切な視点です。

【今回の学び】⇒役割の大きさは立場でなく「影響力」でできる!